

八学大学長に小林氏就任へ

異例の市長経験者登用

学校法人光星学院（法官新一理事長）が運営する八戸学院大の次期学長に来年4月、前八戸市長で同法人理事長補佐の小林眞氏（74）が就任することが24日、関係者への取材で分かった。



小林眞氏

青森県内で市町村長経験者が大学のトップに就任するのは異例。行政経験や人脈を生かした学校運営を期待しての登用とみられ、同法人は年明けにも正式発表する予定。

小林氏は東北大法学部卒。1975年に青森県庁入庁後、79年に自治省（現総務省）入省。2005年から八戸市長を4期16年務めた。昨年6月、同法人非

常勤理事に就任し、今年4月から理事長補佐を務めている。

関係者によると、現職の水野眞佐夫学長の任期が来年3月末で満了することから、法官理事長が小林氏に学長就任を打診。小林氏が受諾し、11月22日の理事会で内定した。

地方の私立大学は、人口減少や東京一極集中を背景に入学者が減少傾向で、厳しい経営を強いられている。同法人も例外ではなく、本年度は八戸学院大と八戸学院大短期大学の改組再編に乗り出すなど、学生確

保に向けた対策に注力している。

また、校舎の老朽化や入学者減少などを理由に、八戸学院野辺地西高（野辺地町）を五戸町の旧県立五戸高に移転することも決定。一連の動きでは、小林氏が法人内で指導的な役割を果たしたとみられ、8月に五戸町役場で行われた記者会見にも同席。異例の学長登用には、こうした手腕が買われたとの見方もある。

取材に対し小林氏は「今はお答えできることはない」と述べるにとどめた。

（田村祐子）